



補習校で耳にした日本語 ～「ミンチミンチして」センスある造語力～

昨年のことです。小1のある女の子が、授業中に「この前、おばあちゃんが、お肉をミンチミンチしてハンバーグを作ってくれたの。」と口にしました。「ミンチミンチ」の言葉を初めて耳にした私は、かわいいと思うと同時にちょっと驚きました。

先日、教室入口にあるサニタイザーで手を消毒していた子どもが、「べたべたする」と言っていました。「べたべた」は「べた」の語を繰り返した「畳語(じょうご)」(「繰り返し言葉」)です。同じ語を繰り返すことにより、その様子が強調されより分かりやすくなります。

畳語には「べたべた」の外にも、「ひとびと」「われわれ」(名詞)、「ぴかぴか」「生き生き」(形容詞)、「ときどき」「わざわざ」(副詞)、「おやおや」「まあまあ」(感嘆詞)などたくさんあり、日常生活の中で頻繁に使われます。また、これらは、文法として(名詞)などのように分類することができます。



〈ある日の授業から〉

畳語の動詞には、どんなものがあるでしょうか。思い浮かべてみてください。なかなか出てこないのではないでしょうか。「休み休み」や「泣く泣く」がありますが、少なくとも子どもが日常的に使う言葉ではありません。少ないのです。

さて、私が驚いたのは、小1の子どもの言葉の使い方です。その子が伝えたかったのは、ただ挽肉を作ってハンバーグを作ったのではなく、挽肉を入念に作っているその様子です。みなさんなら、その様子をどんな言葉で表すでしょうか。その子も一生懸命に考えたと思います。しかし、ぴったりした言葉が見つかりません。あるいは、とっさに出てきたのかもしれませんが。普段使い慣れた英語を持ち出し「ミンチミンチして」と、新しい言葉をつくり出したのです。しかも、伝えたい様子にぴったりした感じです。私は、その子の“センスある造語力”に驚いたのです。

私事で恐縮ですが、ちょうどその頃、日本から離乳を始めた孫が来ていました。仕事が休みの日は「一緒にアムアムしよう」「フーフーするからね。」と言いながら、私は孫にご飯を食べさせていました。「アムアムする」や「フーフーする」は、それぞれ「アムアム」「フーフー」の擬音を使った畳語動詞です。よく耳にしますが造語です。言葉の意味が分からない幼い子どもには、動作の様子がよく分かる言葉だと思います。孫がもう少し大きくなったら、私は孫に「(粘土を)こねこねしよう」「(ごはんを)まぜまぜしよう」と口にすることも知れません。これらは擬態を使った畳語動詞の造語です。

小1の子は「ミンチミンチ」の英語を使った畳語をつくり使いました。的確な日本語が見つからなかったり、日本語が十分でない場合に、ある意味、便利な作り方(使い方)と言えるかもしれません。

くどくどと書いてきましたが、補習校ではいろいろな言葉に出会い、たくさんのことを考えさせていただいています。昨年の小1の子に感謝です。今年は小2の教室でのびのびと学習に励んでいます。